

岡山短期大学 (令和5年度)
実務経験のある教員による授業科目の配置を公表します。

◎実務経験のある教員による授業科目の単位数

学部名	学科名	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数
		全学 共通 科目	学部 等共 通科 目	専門 科目	合計	
	幼児教育 学科			18	18	7

◎実務経験のある教員及び主な実務経験

教授	准教授	講師	助教	計	設置基準上の必要専任教員数
大賀恵子 関野智子		秋山智子 山上幸子		4名	11名

◎実務経験のある教員による授業科目として計上した授業科目の一覧
 <専門教育科目>

授業科目	必修	選択	計	担当教員
幼児理解及び保育相談		2		大賀恵子
保育・教職実践演習		2		浦上博文 都田修兵 秋山智代
子ども家庭支援論		2		大賀恵子
乳児保育Ⅰ		2		山上幸子
乳児保育Ⅱ		1		山上幸子
保育実習指導Ⅰ		2		大賀恵子 山上幸子 吉田升
保育実習指導Ⅱ		1		大賀恵子 山上幸子 吉田升
幼児と環境	1			秋山智代
「幼児と環境」の指導法	2			秋山智代
幼児と表現Ⅱ	1			関野智子
「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1			関野智子
幼児と図画工作		1		関野智子
合計	5	13	18	

令和 5 年 度 教 育 計 画								
科目名	幼児理解及び保育相談		授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀 恵子
質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)：e-mail：ohga@owc.ac.jp 、 OH：土曜日 2 限								
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。							
	幼児理解は保育者の基本となる姿勢である。本科目では、幼児理解の知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解することを目標とする。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。							
	学生の学習成果							
	専門的学習成果：教育目標に掲げる①～③の 3 項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる①～③の項目に関して、保育者としての価値観や人間関係力を養い、自主的に学ぶ姿勢を身につける。							
教 育 方 法	授業 の 進 め 方	（講義・演習・実験・実習・実技） - 主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し学習効果を確認するために講義中に論述課題、小レポートを課す。 - カウンセリング的関わりの理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。						
	予 習 ・ 復 習	- 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 - 毎授業回に復習を求め、そのポイントをまとめる。その際、提出課題とする場合がある。 予習、復習には各回 90 分程度の学習時間を確保すること。						
	テ キ ス ト	谷田貝公昭(監修)・大沢裕・藤田久美 他 『子どもの理解と援助（保育士を育てる）』一藝社、2020 年						
学 習 評 価 の 方 法	専門的学習成果 評価配分は 90 点であり、期末試験（80 点）と課題（10 点）で測る。90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。							
	汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。							
注 意 事 項	参考図書等 小林郁子 小林久利 共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007 年。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を説明する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・幼児理解や教育相談の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の基礎の教育目標が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	<幼児理解・保育相談の意義> 1. 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を確認しながら、それぞれに関わる幼児の発達や学びを捉える原理を心理学的立場から理解する。 2. 本時の活動 ・幼児の発達や学びを捉える原理を理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児の発達や学びを捉える原理が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第2章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
3 回	<幼児理解・教師の基礎的態度> 1. 本時の目標 幼児理解に関して代表的心理学的立場からその原理的考察を深め、幼児に必要な環境について理解する。また、それと関連づけながら幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度がどのようなものであるかも理解する。 2. 本時の活動 ・幼児理解に必要な環境作り、教師の基本的な態度について理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児理解に必要な環境設定、教師の基本的な態度について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
4 回	<幼児理解のための実態把握と理解の方法> 1. 本時の目標 授業3回までを振り返り、幼児理解を深めるための実態を把握し、「個」と「集団」がどのような関係にあるのかを捉える意義や方法を理解し、観察法等の基礎的な事柄を例示する。 2. 本時の活動 ・幼児理解のための実態を把握する。 ・「個」と「集団」の関係が捉える意義や方法を理解している。 ・観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<保育相談支援の計画と記録・事例の対応方法> 1. 本時の目標 学校教育において、カウンセリングマインドの必要性を具体的事例や実際に事例の対応をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・具体的事例の対応について計画を立て援助法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応を理解し、計画に基づく援助法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を熟読する。 ・復習事項：事例の対応方法を確認する。
6 回	<信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など> 1. 本時の目標 これまでの幼児理解に関する内容と関連づけながら、幼稚園をはじめとする教育相談におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 2. 本時の活動 ・カウンセリングの基礎的な理論を理解し、教育相談の実践事例について確認する。 3. 本時の学習成果 ・カウンセリングの基本的な理論が理解し、事例の対応を検討できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6章を熟読する。 ・復習事項：カウンセリングの理論について理解する。
7 回	<保育所における保育相談の実際> 1. 本時の目標 教育相談の計画の作成必要な校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性について、実際の学校現場の様子などの具体的レベルで理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の様子を理解し、養育者自身の問題に対する事例対応を把握する。 3. 本時の学習成果 ・養育者自身の問題における事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第7章を熟読する。 ・復習事項：養護者自身の問題への対応法と留意点を確認する。
8 回	<気になる幼児への理解と保護者支援> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動に対する幼児や児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を考える。児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を心理学的なアプローチにより理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の諸問題について調べたデータをグループで確認する。実際の心理支援の技法を理解できる。 3. 本時の学習成果 ・気になる幼児への理解と保護者支援の方法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：学校現場の諸問題に関する資料を確認する。テキスト第8章を熟読する。 ・復習事項：保護者の心理的支援の方法を理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	＜保育相談支援の内容―障害のある幼児と保護者理解―＞ 1. 本時の目標 障害のある幼児への対応法を確認し、ケースワーク過程について事例をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・事例についてグループワークから対応法を検討する。 ・対応法を確認し、留意点等も確認できる。 3. 本時の学習成果 ・障害のある幼児への対応法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第9章を熟読する。障害のある幼児への対応法を考える。 ・復習事項：集団でのコミュニケーション技法について理解する。
10 回	＜保護者理解と子ども理解＞ 1. 本時の目標 学校ごとの職種や校務分掌に応じて、幼児、児童、及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を具体的な事例をもとに学び、さらに例示することができる。 2. 本時の活動 ・事例を通して具体的な保護者対応を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第10章を熟読する。事例の対応方法を考える。 ・復習事項：事例の対応方法を理解する。
11 回	＜保護者の養育力の向上に資する支援＞ 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を再度理解しなおすとともに、幼児のつまづき、保護者への対応などの具体的方法について理解する。 2. 本時の活動 ・家庭支援に大切な保護者の養育力の向上について基礎的な理論を確認する。 ・家庭支援の具体的な方法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・子育て、家庭支援について、保護者の養育力向上に資する支援法を確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第11章を熟読する。カウンセリング理論について調べる。 ・復習事項：事例の対応法を理解する。
12 回	＜地域資源の活用と関係機関との連携・協力＞ 1. 本時の目標 教員として幼児理解や教育相談に関わる際に、地域の医療・福祉・心理等の医療機関との連携がどのような意義や必要性を有しているかについて理解する。 2. 本時の活動 ・専門機関との幼児理解の共有について確認する。 ・カウンセリングにおける技法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源との連携・協力についての必要性を理解できる。 ・カウンセリングにおける技法について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第12章を熟読する。カウンセリングにおける傾聴技法について調べる。 ・復習事項：カウンセリング技法について理解する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<幼児理解を深める実践と省察> 1. 本時の目標 学校現場における保護者に対する教育相談の進め方を、幼児に対するものと比較して理解する。 2. 本時の活動 ・コミュニケーションの取り方について、技法としての知識を得る。 3. 本時の学習成果 ・幼児と養育者の問題に対する事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。幼児理解を深めるための方法を考える。 ・復習事項：コミュニケーションの取り方に関する技法を確認する。
14 回	<保育に関わる保護者への指導と保育カンファレンスにおける幼児理解> 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 2. 本時の活動 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について確認する。 ・保護者への指導法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について具体的に説明できる。 ・保護者への指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。保護者への指導法について考える。 ・復習事項：保育カンファレンス、保護者への指導について確認する。
15 回	<幼児理解に基づく援助から生まれるもの・総まとめ> 1. 本時の目標 幼児理解に基づく援助から生まれるものは何か、それらを大切にしたい保育相談の方法はどのようなものかを確認し、自身の対応法をまとめる。14 回までの授業内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・14 回までの授業内容を振り返り、幼児理解及び保育相談に関する内容について確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和5年度教育計画							
科目名	保育・教職実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上博文、都田修兵、秋山智代
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等） stsuda@owc.ac.jp、金曜日 5 限目							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。 本科目は、必修科目及び選択必修科目、保育実習、施設実習、幼稚園教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に3つの実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイ等の方法によって探究し、問題解決の手法を学ぶことを目的とする。 具体的には、教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項や次の内容に基づいて授業を行うものとする。 （1）教育課程の全体を通して、保育者として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 （2）保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育者、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 本科目は、短大2年間での学びの集大成としての役割を果たすものであって、自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、保育者生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。 学生の学習成果 ○専門的学習成果 教育目標に掲げる知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。 ○汎用的学習成果 保育者としての使命感や社会の一員として求められる倫理観や価値観を獲得し他者との豊かな人間関係力を養う。						
	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教育目標を達成できるように、講義、グループ討議、ロールプレイなどを通して総合的に学ぶ。また、保育現場と連携を図り、保育者による講演・ディスカッションを実施する。3名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてティーム・ティーチングの方式で行う。また、入学時からの履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。					
教育方法	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 ※予習および復習については、それぞれ90分程度を目安とする。 ※授業における課題等についてはその都度フィードバックを実施する。					
	テキスト	適宜、プリント等を配布する。					

学習評価の方法	以下の学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 (1) 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。 (2) 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 (3) 幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。 (4) 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。 (5) 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 (6) 社会性や対人関係能力を形成する。 (7) 必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 学習評価は、実習報告会、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。 具体的には次の内容によって評価する。 (1) 制作物 (10%) 制作物により評価する。 (2) 幼児理解に関する内容 (10%) 授業内の課題等により評価する。 (3) 実習報告会 (10%) 保育所実習や施設実習、幼稚園教育実習のいずれかについての実習報告を1年生に向けた発表会において行う。なお、その際には発表会用ポスターと当日の発表への取り組み方などによって評価する。 (4) 講演会 (10%) 現場の保育者による講演を聴き、その講演に関する感想などにより評価する。 (5) オペレッタ準備 (20%) 「子どもといっしょに発表会」に向けた準備を行い、その活動への貢献度に応じて評価する。 (6) 小論文 (40%) 小論文による評価を行う。 ただし、受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。保育所実習、施設実習、幼稚園教育実習のそれぞれの成績評価はその成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。
注意事項	参考図書等 参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。 その他 知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には、保育所実習、施設実習幼稚園教育実習を受講し、単位習得の見通しがついていることが前提となる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション>（都田） ・本科目の目標と計画 ・授業の内容と進め方、単位認定に関する説明・スケジュール・担当者の紹介 ・活動 ①グループ討議「これまでの学習の振り返り・保育者になるための自己課題について」 ②講演会に向けて（保育者への質問） ・課題 討議記録の作成
2 ・ 3 ・ 4 回	<幼児理解・学級経営・対人間関係力①②③>（都田・秋山） ・演習 オペレッタの準備 ・活動 「子どもといっしょに発表会」の準備を進める。 ・課題 本時の内容について整理する。
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 回	<使命感・責任感・教育的愛情・対人間関係能力①>（秋山・都田） ・活動 ①各実習経験の共有 ②「実習報告会」に向けた準備 ・課題 ①講義記録及び意見文の作成 ②「実習報告会」のポスター制作・発表原稿の作成
9 回	<使命感・責任感・愛情>（都田・浦上・秋山） ・活動 保育士、施設職員（施設保育士を含む）、幼稚園教諭などによる講演「保育者に必要な指導力、学級経営、指導案について」 ・課題 ①幼稚園教諭とのディスカッション「幼児に対する教育的愛情、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との連携について」 ②ディスカッション記録の作成講義記録及び意見文の作成グループ討議 ・課題 討議記録の作成
10 回	<社会性や対人間関係能力>（浦上） ・講義 講演のまとめ グループ討議・発表 「保育者講演・ディスカッション授業のまとめ・保育者としての自覚の形成」
11 回	<幼児理解・学級経営・対人間関係力④>（都田） ・講義 グループ討議「幼児理解と保育の展開」 ・活動 グループ討議「幼児理解と保育の展開」をする。 ・課題 本時の内容について整理する。
12 回	<幼児理解・学級経営・対人間関係力⑤>（都田） ・講義 グループ討議「保護者対応」 ・活動 グループ討議「保護者対応」をする。 ・課題 本時の内容について整理する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 ・ 14 回	<保育内容指導力①②>（秋山、都田） ・活動 エプロンシアターや手袋シアターを作成する。 ・課題 保育指導案や教材の作成を進める。
15 回	<確認とまとめ> （浦上・鈴木） ・活動 「保育者としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」を小論文に書く。 <総復習> ・学びの振り返り

令和5年度教育計画							
科目名	子ども家庭支援論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜2限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。 子ども家庭支援の意義と役割を理解し保育者による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。また、保育者としての価値観・人間関係力を養う。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	（ 講義 ）・演習・実験・実習・実技） 教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、こども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。					
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。 予習、復習には各回90分程度の学習時間を確保すること。					
	テキスト	和田上貴昭・高玉和子（編著）他 『子ども家庭支援論（保育者を育てる）』一藝社、2020年					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は80点であり、期末試験で測る。また80点は、以下に示した4つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 評価は、課題・授業中に実施し提出する課題（20点）、及び期末試験（80点）により実施する。						
	汎用的学習成果 評価配分は20点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。						
注意事項	参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ21の技法』中央法規出版、2008年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	＜オリエンテーション・子ども家庭支援の必要性、家庭の機能と役割＞ 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。さらに、家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握したうえで家庭の機能と役割を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子どもに現れる様々な問題を解決するためには子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識を持つ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜子ども家庭支援の意義と社会状況＞ 1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態を把握し、子ども家庭支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、取り巻く社会状況の中で家庭がどのように機能していくべきかを考えられるようになる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：家庭・家族の概念を調べ、テキスト2章を熟読する。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の意義と機能に関する課題を仕上げる。
3 回	＜保育者による子ども家庭支援の目的と必要性＞ 1. 本時の目標 子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、事例についてグループで対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、各グループの対応法から求められる支援のあり方を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育者による子ども家族支援の目的と必要性を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育者の専門性とは何かを調べておく。テキスト3章を熟読する。 ・復習事項：保育者の専門性と子ども家庭支援の目的と必要性に関する課題を仕上げる。
4 回	＜保育の専門性と子育て支援＞ 1. 本時の目標 保育の専門性について確認し、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容の理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育者の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を熟読する。子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<家庭の状況に応じた支援> 1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育者としての対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・ 資料を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 事例をもとにロールプレーをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第5章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・ 復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。
6 回	<保護者及び地域の実践力向上に資する支援> 1. 本時の目標 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第6章を熟読する。子育て支援サービスについて調べておく。 ・ 復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関して説明できるようにする。
7 回	<保育者に求められる基本的態度> 1. 本時の目標 保育者に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保育者に求められる基本的態度を理解し、説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第7章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・ 復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。
8 回	<社会資源との連携・協力> 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 社会資源における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第8,9章を熟読する。最寄りの地域の子育て支援について調べておく。 ・ 復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	＜子育て家庭に対する支援体制＞ 1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育者としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 社会資源の活用、調整、開発のための保育者としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 8, 9 章を熟読する。社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。
10 回	＜子育て支援施策・次世代育成支援施策＞ 1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 10 章を熟読する。子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・ 復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。
11 回	＜さまざまな子育て家庭への支援内容＞ 1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 11 章を熟読する。子育て家庭支援について調べておく。 ・ 復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。
12 回	＜保育所等を利用する子ども家庭支援＞ 1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 12 章を熟読する。児童福祉法・保育所保育指針を確認しておく。 ・ 復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<要保護児童等及びその家庭に対する支援> 1. 本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 保育者は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 13 章を熟読する。児童虐待に関する内容について調べておく。 ・ 復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。
14 回	<地域の子育て家庭への支援> 1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 2. 本時の活動 ・ 目標内容を解説し、理解度を課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・ 地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育者の役割や支援者のあるべき姿を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。地域子育て家庭支援に関する取り組みを調べる。 ・ 復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。
15 回	<子ども家庭支援に関する現状と今後の動向・総まとめ> 1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育者の役割を確認する。 2. 本時の活動 ・ 本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・ 本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・ 予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。 ・ 復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令和5年度教育計画							
科目名	乳児保育Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山上 幸子
質問受付の方法(e-mail: yamagami@owc.ac.jp オフィスアワー等): B307研究室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標: <u>本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である</u> 保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。 1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 学生の学習成果: ・専門的学習成果: 将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果: 人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜学習の理解を深めるために参考資料を配付する。 ・実際の写真や動画で乳児を身近に感じる。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。 また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 ・随時、模擬保育室や人形を使用し実践保育を導入する。					
教育方法	予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各 15 分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。					
	テキスト	・加藤 敏子編著 富永 由佳:2019「乳児保育 一人一人を大切に」萌文書林 ・プリント					
学習評価の方法	1. 上記3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 80% (試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20% (提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 尚、汎用的学習成果について、「保育者としての態度・信念」 課題・演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。 学習評価は、上記を総合して行う。						
注意事項	参考図書等: ・監修: 公益財団法人 児童育成協会 編集: 寺田清美 大方美香 塩谷 香 :2019「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 ・田中真介監修 乳児保育研究会編書:2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 <乳児保育の目的と役割> ・学習のポイント:乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性。さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。手遊びをする テキスト p.10～28 「乳児保育の意義」・「乳児保育の歴史と現状」 ・課題:「乳児保育の目的と役割」についてワークシートにポイントまとめる。 ・予習:「子どもを産み育てていくとしたら、どんな子育て支援が必要か？」考えてくる。
2 回	<乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題> ・学習のポイント:子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。 テキスト p.28～39「乳児保育の歴史と現状」 手遊びをグループでする ・課題:グループで「子育て支援・待機児童・乳児院」について話し合い、ワークシートにまとめる。 ・復習:「乳児保育の目的と役割」について確認しておく。 ・予習:「生まれたばかりのあかちゃん」について、どんな能力があるか考えてくる。
3 回	<あかちゃんの能力について> ・学習のポイント:DVD視聴 「あかちゃん このすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく実際にはどんな能力があるのか認識する。 実際に人形を抱いたり、おしめを交換したりして応答的なかかわりをする。 ・課題:視聴後、「あかちゃんの能力」について学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・復習:ワークシートについての確認。 ・予習:テキスト (1)「誕生～6か月未満」の発達の特性を読んでくる。
4 回	<誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、1 か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。手遊びをグループでみんなの前でする。 テキスト p.40～58 第3章 1発達の特性 2(1)誕生～6か月未満 ・課題:ワークシート「誕生～6か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実例 前半」を視聴し 0 歳児前半の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「あかちゃんの能力」確認をする。 ・予習:テキスト (2)「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性を読んでくる。
5 回	<6か月～1歳3か月未満の発達と保育> ・学習のポイント:「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する テキスト p.58～65 「6 か月から 1 歳 3 か月未満」 絵本を読む・グループで交代しながら見せ合う。導入から ・課題:ワークシート「6か月～1歳3か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ:「乳児保育の実例 後半」を視聴し、6 か月～1 歳 3 か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「誕生～6か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (3)「1 歳 3 か月～2 歳未満」の発達の特性を読んでくる。

6 回	<1歳3か月～2歳未満の発達と保育> ・学習のポイント:1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 テキスト p.66～69 「1歳3か月～2歳未満」 ・課題:ワークシート「1歳3か月～2歳未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ視聴:「遊びの中にみる1歳児」を視聴し1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「6か月～1歳3か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (4)「2歳～3歳未満」の発達の特性を読んでくる。
7 回	<2歳～3歳未満の発達と保育> ・学習のポイント:「2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 テキスト p.70～74 「1歳3か月～2歳未満」 ・演習:ワークシート「2歳～3歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ・復習:「1歳3か月～2歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:乳児の玩具はどんな物があるか調べて、材料を集める。
8 回	<乳児期の発達の特性> 学習のポイント:乳児期の発達と特性について理解する。 テキスト p.40～49 「3歳未満児の発達と保育」発達の特性 「泣く子の見分け方」について・・・資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。 「はいはいの発達」について・・・資料をもとに、はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。 ・「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてまとめる。ワークシート ・復習:「2歳～3歳未満」の子どもの発達と保育者の配慮・援助の確認。乳児の玩具集め。 ・予習:テキスト3「乳児期の生活」・4「1～2歳児の生活」の離乳食と食事を読んでくる。
9 回	<乳児の生活②(食事・睡眠)> ・学習のポイント:テキスト p.76～88 「乳児期の生活」、p.94～100「1～2歳児の生活」 「スプーンと箸について」の資料によって、基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 ・演習:ワークシート「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方」について空白を記入し提出。 ・復習:「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてポイントを確認。 ・予習:「子どものトラブル」にはどんなことがあるか考えてくる。
10 回	<場面事例から学ぶ> ・学習のポイント:ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合い、相手の意見や気づきを共有する。 ・課題:各グループでビデオ視聴後、場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。 ワークシート「かみつき・ひっかきの対応の仕方」について、事例をもとに分析し、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。「ひっかき・かみつきへの対応」の資料 実習時の自己紹介の仕方について話し合う。 ・復習:「食器の選び方」や、スプーン・箸の持ち方の発達過程について確認。 ・予習:乳児の玩具について考え、材料を集める。

11 回	< 保育の計画と記録 > ・学習のポイント:乳児保育を行う上での計画の必要性, また、保育計画作成において保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 テキスト p.152～175「保育の計画と記録」 ・課題:「0～3 歳未満」それぞれの「生活と遊び」の指導案を作成する。 グループで年齢を決め、0 歳児、1 歳児、2 歳児それぞれの「ディリープログラム」をもとに生活と遊びの流れの場面の指導案を作成する。 ・復習:「トラブルの対応について」確認(被害者・加害者・保護者・園など各側に立って)。 ・予習:テキスト (3)排泄(4)着脱衣(5)清潔を」読み確認する。
12 回	< 排泄:着脱衣・清潔> 学習のポイント:基本的生活習慣は、人間が快適に生活するために欠かせないものであり、集団保育では家庭と連携して身につけられるよう援助していくことが大切である。保育者が乳幼児期それぞれの発達過程により、どう援助していくかを認識する。 テキスト p.88～94「乳児期の生活」・ p.100～109「1～2 歳児の生活」 (3)排泄(4)着脱衣(5) ・課題:グループで「生活場面における子どもの姿と保育者のかかわり」について話し合いまとめる。 ・復習:0、1、2 歳児それぞれのディリープログラムや発達によって、援助の仕方や関わり方の違いについて確認する ・演習:乳児の玩具作り
13 回	< 乳児の玩具 ・ 遊び> ・学習のポイント:乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 テキスト p.110～126「乳児期のあそび」・「1～2 歳児のあそび」 ・課題:手作り玩具を製作(1～2 個) 手作りした玩具の「あそび・遊び方・育つもの」について項目ごとにまとめる。 またグループでそれぞれの玩具について発表し合い、どんな働き(育つもの)は何か考える。 ・演習:乳児の手遊び・ふれあい遊び
14 回	< 健康, 安全管理 ・ 保育の環境> ・学習のポイント:子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 テキスト p.127～151 「健康、安全管理」・「保育の環境」 ・課題:グループで「起こりやすい事故への対処方法」について話し合いにまとめる。 ・予習:乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。
15 回	< 乳児保育の今後の課題 ・ まとめ> ・学習のポイント:近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 テキスト p.176～192「乳児保育の今後の課題」 ・課題:～乳児保育で大切なこと～、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習:実習園では子どもの発達についてはどうだったか？ どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。

令和 5 年 度 教 育 計 画								
科目名	乳児保育Ⅱ		授業回数	15	単位数	1	担当教員	山上 幸子
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：B 3 0 7 研究室								
教育目標と学生の学習成果	教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 乳児保育の基本的な考え方について理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びや生活の実際、環境構成、援助、配慮について理解するとともに、指導計画と記録のあり方について学ぶことを目的とし、以下の4点を主な目標とする。 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 専門的学習成果：乳児保育Ⅰの学びを基礎として、発育・発達の過程や特性を踏まえた子どもへの関わり方や保育環境について理解を深める。 汎用的学習成果：人間形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。							
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、講義、グループ討論、演習を行う。 ・受講者の理解を図るため、課題により資質能力の確認、まとめを行う。						
教育方法	予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。(各 15 分程度) 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。						
	テキスト	・善本眞弓 編著 小山朝子 亀崎美沙子：「演習で学ぶ 乳児保育」わかば社						
学習評価の方法	評価を以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。10、30、20、10点で計 70 点、汎用学習成果計 30 点を合わせて 100 点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。 1. 乳児保育の基礎について理解する。(1 回) 2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて理解する。 0～2 歳児の生活の流れ・保育環境・援助 (2～10 回) 3. 乳児保育における配慮について理解する。(11, 12, 13 回) 4. 乳児保育における計画について理解する。(14, 15 回) 尚、汎用学習成果について、「保育者としての態度・信念」 課題や演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。 学習評価は、上記を総合して行う。							
注意事項	参考図書：監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷 香 ：「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 評価として提出物、演習課題を重視する。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 <乳児保育の基本> ・学習のポイント：保育者との応答的にかかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか、理解する。 1. 子どもと保育者との関係性について・人形を使って実際にする 2. 乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容 演習：応答的なかわりと言葉の育ちにはどんな関係があるか考えてみよう。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
2 回	<子どもの生活の流れ（0歳児クラス）> ・学習のポイント：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしたい視点を学ぶ。 1. 0歳児のディリープログラムについて 2. 乳児のディリープログラムの特徴 3. 一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践 演習：「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみよう。育児担当制を実施する場合のメリット、デメリットを考えてみよう。 復習：子どもと保育者との関係の重要性について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
3 回	<子どもの保育環境（0歳児クラス）> ・学習のポイント：子どもの保育環境は、大きく人的環境と物的環境に分けられる。なかでも、物的環境における心地よい室内環境や発達を促す玩具について学ぶ。 1. 指針からみる保育環境 模擬保育室で保育してみよう 2. 乳児が過ごしやすい部屋 3. 玩具 演習：家庭的雰囲気にするために、どのような工夫ができるか考えてみよう。 復習：「0歳児のディリープログラム」について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。
4 回	<子どもの援助の実践（0歳児クラス）> 学習のポイント：生活（「養護」）と遊び（5領域につながる「3つの視点」）の援助について学ぶ。 1. 生活の援助の実践 模擬保育室等で実際に人形を使って学ぶ 2. 遊びの援助の実践 演習：0歳児クラスの食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみよう。 復習：「0歳児クラスの保育環境」について再確認する 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。
5 回	<子どもの生活の流れ（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の一日の生活（ディリープログラム）に沿って、保育者の配慮を学ぶ。 1. 1歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） 演習：「朝の視診」について考えてみよう。実際にしてみよう。 復習：「0歳児の生活と遊びの援助」について大切なことを確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。

6 回	<子どもの保育環境（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の発達の特性に配慮する中で、保育者の援助がスムーズに行える環境設定や、地域性における工夫について学ぶ。 1. 環境の整備（生活と遊びの場） 演習：手作り玩具をつくってみよう。 復習：1歳児の生活の流れの中で、大切な「保育者の配慮」について確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。
7 回	<子どもの援助の実際（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の発達の特性を考えてどのように援助したらよいか？保育者のかわり方について、生活と遊びの両面から、具体的な援助について学ぶ。 1. 生活の援助：保育士と子どもに分かれ模擬保育する。ロールプレイング 2. 遊びの援助 「排泄と着脱について」、保護者は排泄の自立についてどのように考え、どのような悩みを持っているだろうか、認識する。遊びの場面のDVDから考える。 演習：着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのか考えてみよう。 復習：援助しやすい環境設定について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
8 回	<子どもの生活の流れ（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児の生活の流れを理解し、2歳児の発達の課題である生活習慣の自立を促すための環境構成や、保育者のかわりとは何かについて学ぶ。 1. 2歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） 演習：事例から、自立をうながす保育者のかわりを考えてみよう。 食事・排泄・衣服の着脱・清潔・その他の場面などから 復習：生活と遊びの中での具体的な援助の仕方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
9 回	<子どもの保育環境（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスの物的環境の1つである玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するかを学ぶ。 1. 玩具のそろえ方のポイント 2. 見立て遊び 3. 手指の発達をうながす遊び 簡単な集団遊びを知る 演習：2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるかを考える。 復習：生活習慣の自立をうながす保育者のかわり方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。
10 回	<子どもの援助の実際（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認し、保育所保育指針に示されている、「育みたい資質・能力」につなげる2歳児の育ちについて理解する。 1. 手指の発達をうながす遊びと生活習慣 様々な行事を知る 演習：トイレ排泄に慣れ、自分で排泄できるようになる時期である。自分で排泄しようとするための適切な援助を考える。 復習：玩具が子どもの発達にどのように関係するかを確認する。 予習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について考えてくる。

11 回	<子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮> ・学習のポイント：子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とは何かを保育所保育指針から確認し、現状で起こっている事故などについて知り、基本的な知識を身につける。 1. 保育所保育指針の内容 2. 子どもの死亡および事故の現状と課題 3. 保育園・幼稚園での行事の取り組みについて 演習：危機管理における保育者の配慮と子どもの安全教育 復習：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認する。 予習：「保育者、その他の専門職、保護者との連携」について考えてくる。
12 回	<集団での生活における配慮> ・学習のポイント：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学ぶ。 1. 集団保育と個々への援助 2. 保育者同士と他職種・保護者との連携 演習：事例を読んで、保護者に園での子どもの様子をどう伝えるか、考えて書いてみよう。 復習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮とは 予習：「環境の変化や移行に対する配慮」について考えてくる
13 回	<環境の変化や移行に対する配慮> ・学習のポイント：移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助のあり方に関する基本的事項を学ぶ。 1. 移行とは何か 2. 環境の変化や移行に対する配慮とは 演習：DVD「物とのかかわりの中で学ぶ」を視聴して、子どもの姿からの気づきや感じたことを記録する。 復習：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か確認する。 予習：乳児保育における計画にはどのようなものがあるか考えてくる。
14 回	<長期的な指導計画と短期的な指導計画> ・学習のポイント：長期的な指導計画と短期的な指導計画について学び、指導計画の必要性について考える。指導計画の評価（保育の振り返り）について学ぶ。 1. 実際の指導計画から・保育の振り返りについて 演習：DVD「人とかかわりの中で学ぶ」を視聴して、子どもの姿からの気づきや感じたことを記録する。 復習：子どもがスムーズに移行するために何をしたらよいのか確認する。 予習：個別的な指導計画と集団の指導計画とはどんなものか考えてくる。
15 回	<個別的な指導計画と集団の指導計画> ・学習のポイント：個別的な計画と集団の計画について理解し、個別の指導計画の必要性について学ぶ。個別計画を立てるには家庭との協力・連携の必要性について学ぶ。 1. 個別的な計画・集団の計画 2. 保護者との連携 演習：まとめ「0歳～2歳児の発達過程」の特徴を書いて表を完成させよう。 復習：指導計画の保育の振り返りの必要性について

令和5年度教育計画							
科目名	保育実習指導Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・山上幸子・吉田 升
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail: ohga@owc.ac.jp、 OH: 土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学生の学習成果 専門的学習成果として、教育目標に挙げる5項目を習得する。 また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③保育者としての論理的思考力・人間関係力を育成する。						
	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。					
	予習・復習	・授業に対する予習・復習は毎回義務付けられる。各90分確保し十分に習得すること。 ・授業を受けての「自己課題と対策」などに関しては、シャトルカードに記述し、次の振り返りと学びの確認に活用する。					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。						
学習評価の方法	保育所実習Ⅰ、施設実習のそれぞれについての実習指導を50：50の比重で評価し合計100点満点とする。各実習で以下の5つの学習成果（授業課題、調査表やレポート課題の提出状況）について 同じ比重 で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。 ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実習に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。						
注意事項	※「保育実習指導Ⅰ」は、1年次後期から2年次前期にかけて実施される。 ※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。 ※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 実習までのスケジュール 4. 開講にあたっての意識調査 ◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題化
2 回	施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』 4. 実習可能施設一覧表 ◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成
3 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 事前準備の話、ビデオ「はじめての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。 2. ボランティアと実習との相違 3. 実習希望先（案）揭示・確認・調整 ◆課題：「開講にあたっての意識調査」
4 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習の意義と目的 2. 実習の段階等 3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A 4. 実習報告会参加についての説明 ◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）
5 回	保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習報告会参加 2. 報告会に参加しての学びをまとめる ◆課題：実習報告会プリントの作成・提出
6 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明 2. ボランティアに関する諸注意 ◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。
7 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習における実習生の心得 1. 『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」 2. 日誌の書き方と記入練習 ◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化
8 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 実習事務訓練 1. 「実習の意義、心構え、社会人としての責任、守秘義務、実習の目標」 2. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意 3. 手作り玩具（2年生の作品）の作品紹介 ◆春休み課題：実習希望先のボランティア・ボランティア日誌 1. ボランティア（3日間） 2. レポート「ボランティア園の概要・保育所の日・日誌1日分」 3. 手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 提出された実習事前レポートについての補足と解説 2. 「実習中の基本的態度と注意事項」 3. 事前オリエンテーションの事前指導 ◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。
10 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認 1. 書式説明 2. 記入の諸注意 3. 参考例による確認 ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票）」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 ◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。
11 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 実習中勤務時間外の注意事項 2. 日誌の書き方と注意事項 ・施設実習連絡・注意事項(1) ◆課題：一日分の日誌を書く。
12 回	施設実習（以下について理解する。） 1. 日誌の書き方と注意事項 2. 『実習の手引き』実習生の心得 ・施設実習連絡・注意事項(2) ◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。
13 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 実習記録の書き方『施設実習の手引』第Ⅳ章 1. 実習日誌の記録 2. 日誌欄について 3. 実習生としての姿勢と責任 4. 人間関係とマナー ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について ◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。
14 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習に向けて『実習後のまとめ』 1. 諸注意の確認 2. 課題の設定 実習終了後の諸注意（施設）『施設実習の手引き』第Ⅴ章 ◆課題：実習後レポートについての説明
15 回	事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。） 実習後の事後記録記述 ◆課題：施設実習事後レポート ◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認

令和5年度教育計画							
科目名	保育実習指導Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子・山上幸子・吉田 升
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）： e-mail:ohga@owc.ac.jp、 OH:土曜2限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 実務経験のある教員等による授業科目である。 1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に挙げる5項目を習得する。 汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力、人間関係力を培う。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第1～4回 ・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第5～9回 ・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画のDVDを用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第10～13回 ・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第14, 15回					
	予習・復習	講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。各回1時間程度の学習時間を確保すること。					
	テキスト	岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』（平成31年）、フレーベル館『保育所保育指針』平成29年告示					
学習評価の方法	以下の5つの学習成果について均等に評価し、合計100点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。 ① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物 ② 保育実践力 ③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び ④ 保育士の専門性と職業倫理の理解 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。						
注意事項	※「保育実習指導Ⅱ」は、2年次前期に開講される。 ※13回目までの内容を実習前に実施する必要がある。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<保育所実習指導Ⅱオリエンテーション> 教育目標 1 1. 保育実習Ⅱの意義と目標 2. 評価について ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：DVD「保育士・幼稚園教諭になるために－保育士の仕事と役割－」を通じて実習のイメージを形成する。 ◆課題：「実習生について（個人票）」下書きの説明と記入
2 回	<実習の内容について> 教育目標 1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 ◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述
3 回	<実習の形態と記録について> 教育目標 1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ・Ⅲ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・演習： 春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 ◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入
4 回	<保育の理解について> 教育目標 1・2 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章」 について理解する。 ◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)
5 回	<保育計画について> 教育目標 1・2 ・講義：日誌・指導案の書き方について理解する。 ・演習：月案・週案・日案・指導案の書き方など各項目についての解説に沿って整理し、まとめを記述する。指導案の「環境構成」「予想される子どもの活動」「保育場の配慮・援助」を解説に沿って記述する。 ◆課題：部分指導案例の通読
6 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・講義：部分指導「マラカス作り」の指導案（1年後期授業より）の確認、指導を受けて要領を理解する。 ・演習：グループごとに部分指導「マラカス作り」の模擬保育を行い、内容の反省と考察を行う。（模擬保育室で実践） ◆課題：演習課題の完成と提出
7 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・講義：「生活から遊びへの流れ」について3歳未満児と3歳以上児の違いや保育士の動きの違いに関する指導を受けて、要領を理解する。 ・演習：①前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ②グループごとに「食事の指導案（3歳未満と3歳以上）から遊び」への流れの模擬保育を行い、内容について反省と考察を行う。（模擬保育室で実践） ◆課題：演習課題の完成と提出

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「遊びの指導案作成① グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ◆課題：演習内容の完成
9 回	<指導案作成について> 教育目標 2・3 ・演習：「遊びの指導案作成② グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ・演習：ワークシート「指導案の中の7つのエラー探し」をする。 ◆課題：①「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出 ②「実習の自己課題」を考えてくる。
10 回	<実習の準備と留意事項> 教育目標 2・3・4 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅴ章」について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 ◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出
11 回	<保育所保育指針復習①> ・演習：保育所保育指針 第1章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 <実習のまとめと評価について> 教育目標 1・4 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅵ章」「保育所実習評価の着眼点」について理解する。 ◆課題：保育実習巡指導の依頼
12 回	<保育所保育指針復習②> ・演習：保育所保育指針 第2章からワークシートを用いてまとめる。 <実習書類と諸注意> 教育目標 1・4 ・講義：「保育所実習の手引 Ⅴ実習のまとめ」について理解する。 ◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。
13 回	<保育実習の直前確認> 教育目標 2 ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。
14 回	<保育実習の総括①> 教育目標 5 ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 ◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。 課題：実習園へのお礼状送付
15 回	<保育実習の総括②> 教育目標 5 ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決するべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 ◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己課題を明確にする。

令和5年度教育計画							
科目名	幼児と環境	授業回数	15	単位数	1	担当教員	秋山智代
質問受付の方法 e-mail : akiyama@owc.ac.jp OH: 水曜日、木曜日 9 : 00～16:00 M409 室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。 保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、幼児が自ら興味や関心をもって環境に主体的に関わり、充実感や満足感を味わうことのできる体験について深く理解し、そのような幼児と環境との関わりを促進させる意図的な関わりに検討を加えていくのに必要な知識・技能を身に付ける。また、人的環境としての保育者の感性を養う。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：子どもの発達・成長に重要な「環境」に関する様々な知識・技能及び感性を身に付ける。 汎用的学習成果：保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、保育者として求められる態度・信念を獲得する。また、自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。						
教育方法	授業の進め方	(講義)・演習・実験・実習・実技) ・保育内容「環境」のねらいを理解し、豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、まとめる。 ・植物を栽培したり、動物を飼育したりしてその成長を観察する。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定(シャトルカードに記入)する。					
	予習・復習	予習事項：「授業回数別内容」に記された内容について90分間以上調べてから授業に臨む。 復習事項：保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して90分間以上かけて授業内容を整理する。					
	テキスト	・神長美津子ら編『保育内容 環境』光生館 2018 その他適宜資料を配布する。保育内容 *まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。					
学習評価の方法	*学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、受講態度、レポート、定期試験を総合的に評価する。 専門的学習成果：定期試験(60点) 小テスト(10点×2回=20点) *採点終了後、学生に返却し解説等を実施する。 小テスト実施日に欠席等の者は、後日試験を実施する。 汎用的学習成果：幼児の環境構成レポート(10点×2回=20点)						
注意事項	【参考図書】 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』文部科学省厚生労働省フレーベル館、2018年 ・『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社、2015年 ・『「そだててあそぼう 3」サツマイモの絵本』農山漁村文化協会、2001年 ・『子どもと環境―基本と実践事例―』田尻由美子・武藤隆編、同人書院、2011年 ・保育内容 環境 ―基礎的事項の理解と指導法― 岡 健 編 建帛社、2019年 ・「保育内容環境」酒井幸子・守巧萌文書林、2016年。 ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林、2013年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション><環境とは、領域「環境」に求められていること> 授業計画、学習評価方法について確認する。 「環境」のねらいと現代の課題、保育内容、保育者の役割について理解する。 ○活動内容：オリエンテーション（授業の進め方、学習評価の方法） 環境のねらい、考え方と保育者の役割（テキスト序章） ○学習成果：領域「環境」の概要について知り、そのねらいや内容を理解するとともに、子どもを取り巻く環境、保育者の役割について学ぶ。 ○復習事項：子どもを取り巻く環境、領域「環境」のねらいや内容を整理する。
2 回	<0歳児から3歳児未満の育ちと環境との関わり> 乳児・1歳以上3歳未満児の発達を理解する。 ○活動内容：コミュニケーションの発達、愛着の形成、発達を理解する。（テキスト pp.16-19） ○学習成果：一人一人の発達に応じたかかわりを模索する。 ○予習事項：乳児・1歳以上3歳未満児の身体的発達を調べる。 ○復習事項：乳児の思いに応える関わり方を考える。
3 回	<0歳児から3歳児未満の育ちと環境との関わり> 乳児保育に関わるねらい・内容を理解して保育の環境を考える。 ○活動内容：乳児・1歳以上3歳未満児の保育の内容を学ぶ（テキスト pp.19-31） 事例を読んで、子どもの心情を学ぶ ○学習成果：年齢に応じた保育の環境を考える。幼児の環境の構成レポート① ○予習事項：乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらいを調べる。 ○復習事項：乳児・1歳以上3歳未満児の保育の保育室環境について考える。
4 回	<3, 4歳児の育ちと環境との関わり> 3, 4歳児の発達の特徴をふまえて、環境に関連する内容への理解を深める。 ○活動内容：思考力の芽生えを理解して環境の構成・配慮・保育者の関わり方を考える。 （テキスト pp.33-44） ○学習成果：3, 4歳児の発達を理解している。 ○予習事項：3, 4歳児発達を調べてくる。 ○復習事項：3, 4歳児の好奇心・探求心を育む環境の構成を考える。
5 回	<3, 4歳児の育ちと環境との関わり> 自然の変化生命の尊さを伝えることや、思考力、判断力、表現力等の基礎を育てる。 ○活動内容：遊びの中で思考力、判断力、表現力の基礎を育てる。（テキスト pp.44—51） ○学習成果：幼児期の教育において育みたい資質・能力の定義を理解している。 ○予習事項：思考力、判断力、表現力の基礎を調べる。 ○復習事項：思考力、判断力、表現力を育てる保育案を作成する。
6 回	<5歳児・幼小接続期の育ちと環境との関わり> 5歳児の育ちを学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解する。 ○活動内容：5歳児の育ちと学びを理解する。（テキスト pp.52—58） ○学習成果：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を説明できる。 ○予習事項：5歳児の育ちや環境構成を調べる。 ○復習事項：10の姿をまとめる。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

7 回	＜5歳児・幼小接続期の育ちと環境との関わり＞ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を事例から考える。 現代の課題（ICT教育、ESD、国際理解）を学び、これからの保育者像を考える。 ○活動内容：事例を読んで育ってほしい姿との関連を考える。（テキスト pp.59-73） 少テスト（第1回）シラバス第4回、第5回の内容 ○学習成果：事例から、子どもの育ちを読み取れるようになる。 ○予習事項：ESDについて、調べる ○復習事項：幼稚園教育のなかでのESDとは、を考える
8 回	＜環境のねらいおよび内容をふまえて保育を構想する＞ 園の環境（安心、安定できる環境、表現できる環境、探究できる環境、創意工夫できる環境、チャレンジできる環境）をデザインする ○活動内容：いろいろな環境を構成する。（テキスト pp.78—94） 畑の環境を考える（夏野菜とサツマイモの理解，植え付けをする。） ○学習成果：畑に野菜を植えて，生命を育てていこうとする心構えをもつ。 ○予習事項：野菜の栽培方法について調べてくる。 ○復習事項：今後、成長過程を観察する
9 回	＜環境のねらいおよび内容をふまえて保育を構想する＞ 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫を考える。 領域「環境」に関わる姿からの幼児理解と評価を理解する。 ○活動内容：自然環境の特性について明らかにしながら援助の工夫 幼児理解と自らの保育の見直し改善（テキスト pp.94—110） ○学習成果：事例の子どもの姿から読み取りと援助を考える ○予習事項：テキストの事例を読んでくる。 ○復習事項：季節による自然や生活の変化を感じる体験ができる遊びを考えよう。
10 回	＜遊びや生活のなかで思考力の芽生えを培う＞ 幼児期の教育における思考力が芽生えていく姿をとらえ指導の在り方について考える。 ○活動内容：自然な生活のなかでの、数や量や図形などへの関心とその発達を事例から学ぶ。 （テキスト pp.111—121） ○学習成果：いろいろな事例から遊びの多様性を知る。 ○予習事項：テキストの事例を読んでくる。 ○復習事項：数や量や図形などへの関心が持てる、年齢に応じた、遊びを考える
11 回	＜遊びや生活のなかで思考力の芽生えを培う＞ 思考力や科学的概念の育ちを促す環境を構成する。又身近なものを大切にする態度を育てる指導の必要性を学ぶ。 ○活動内容：子どもを遊びに誘う環境を考える。（テキスト pp.121—132） ○学習成果：遊びに誘う要因を学ぶ。 幼児の環境の構成レポート② ○予習事項：身近なものを大切にする心を育てるには、どうすればいいのか考える。 ○復習事項：遊びが活発になるいろいろな要因をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	＜社会生活との関わりをつくる＞ わが国の文化や伝統に親しみ様々な国の文化にもふれる。 ○活動内容：伝承遊びやわらべ歌の演習を通して、日本の伝統文化にふれる。 (テキスト pp.133—137) 小テスト (第2回) シラバス第9回の内容 ○学習成果：情報機器を活用して調べた伝統文化や国旗、昔遊びによる活動の援助や配慮事項を理解する。 ○予習事項：伝承遊びについて考えてくる。 ○復習事項：幼児の環境構成をレポートにまとめる。
13 回	＜社会生活との関わりをつくる＞ 標識や文字に興味を持ち地域社会のなかでの育ちを具体的な実践事例を通して考える。 ○活動内容：日常生活のなかの標識や文字に興味を持ち地域社会のなかで経験を広げる (テキスト 137—147) ○学習成果：身近な標識や文字を考え、保育に活かす方法を考える。 ○予習事項：園内外の標識や文字について調べてくる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。
14 回	＜子どもの育ちをつなぐ＞ 領域「環境」の3つのねらいが達成されるために、2～3歳児の保育は、どうあったらよいか「つなぐ」ということに視点をあてながら環境や援助を考える。 ○活動内容：2・3歳児の保育のポイントを考える。(テキスト pp.148—159) ○学習成果：子どもの気持ちを大切に保育することを学ぶ。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。
15 回	＜子どもの育ちをつなぐ＞ 小学校教育との接続のポイントを理解する。前期環境のまとめをする。 ○活動内容：幼児期の教育と児童期の教育の違いを理解する。(テキスト pp.160—171) ○学習成果：幼稚園と小学校の違いを理解する。 前期環境のまとめをする。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ○復習事項：前期環境の内容を整理して前期試験に備える

令和 5 年 度 教 育 計 画								
科目名	「幼児と環境」の指導法		授業回数	15	単位数	2	担当教員	秋山智代
質問受付の方法 e-mail : akiyama@owc.ac.jp OH: 水曜日、木曜日 9 : 00～16:00 M409 室								
教育目標と学生の学習成果	教育目標 実務経験のある教員等による授業科目である。 保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、このねらいを達成するための領域「環境」のねらい及び内容について実際に五感を通して理解を深め、幼児の発達に即して、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、主体的・対話的な深い学び目指した領域「環境」の具体的な指導場面を構想する手法を身に付けることを目標とする。							
	学生の学習成果 ＜専門的学習成果＞ ① 身近な環境・自然・地域の様々な事象に関心をもち、好奇心や探求心を育む活動内容について幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。 ② 物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする活動内容を、幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。 ③ 栽培活動を通して生命の尊さに気づき、責任ある行動を育む保育活動の計画・実践に係る手法を身に付ける。 ④ 野外・園外活動等における安全管理に係る基本的な知識・方法を身に付ける。 ⑤ 保育要領に示された教育の基本を踏まえ、「環境」のねらい及び内容を理解する。 ＜汎用的学習成果＞ 保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、保育者として求められる態度・信念を獲得する。また、自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。							
教育方法	進 授 め 業 方 の	〔講義・ 演習 ・実験・実習〕 本科目は、ロールプレイ、ディベート等も積極的に取り入れて科学的な概念について理解していく。また、演習も実施し、知識だけでなく体験を通して理解する。毎回、授業の最後に振り返りタイムを設定し、シャトルカードにまとめをする。						
	復 予 習 習 ・	予習事項：「授業回数別教育内容」について 90 分間以上予習し授業に臨むこと。 復習事項：講義内容を 90 分間以上復習し、要点については理解を深めること。 予習復習の取り組み状況は、レポート提出により確認する。						
	ス テ ト キ	・『保育内容 環境』 神長美津子ら編 光生館 2018 年 その他適宜資料を配布する。						
学習評価の方法	＊学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、下記の配分により総合的に評価する。 ＜専門的学習成果＞：保育活動指導案(40 点) 手袋シアター製作 (10 点) 発表 (10 点) エプロンシアター製作(10 点) 発表 (10 点) ＜汎用的学習成果＞：グループ別演習問題 (5 点×9 回=45 点) 授業内活動 (芋掘り 5 点、門松作り 10 点)							
注意事項	【参考図書】 酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016 年。 文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 国立教育政策研究所教育課程研究センター、『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社、2015 保育内容 環境 ―基礎的事項の理解と指導法― 岡 健 編 建帛社、2019 無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域環境』萌文書林、2013 全国幼児教育研究会編著『ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成』ひかりのくに 2017							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<オリエンテーション>本科目の授業計画、学習評価方法等について理解する。【 模擬室 】 <保育と環境>幼児が取り巻く環境との関わりを話し合い、指導方法を考える。 ○活動内容：オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法） 演習問題①（テキスト p. 12）を話し合う。 （模擬室の環境構成） ○学習成果：「失われたそだちの機会」「育ってほしい姿のなかの環境に関わること」を考え、指導方法を模索する ○復習事項：保育者として求められることをまとめる。
2 回	<0 歳児から 3 歳未満児の育ちと環境との関わり> 乳児期における身体的な発達に応じた遊び、環境を考える。 ○活動内容：演習問題②（テキスト p. 32）を話し合う。手袋シアターを作る。 ○学習成果：発達における環境の重要性について説明できる。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ○復習事項：復習事項 発達と環境について復習する。手袋シアターを作る。
3 回	<3, 4 歳児の育ちと環境との関わり> 3, 4 歳児の育ちを理解して実践的に砂場や園庭の環境を考える。 ○活動内容：演習問題③（テキスト p. 50）を話し合う。手袋シアターを作る。 ○学習成果：年齢ごとの違いが分かる。 ○予習事項：3, 4 歳児の育ちを読んでくる。 ○復習事項：手袋シアターを作る。
4 回	<5 歳児・幼小接続期の育ちと環境との関わり> 【 模擬室 】 「幼児期の最後までに育ってほしい姿」を事例から見つける。 芋ほりの保育案を作成する。 ○活動内容：演習問題⑤（テキスト p. 109）を作成する。手袋シアター発表 ○学習成果：幼児期の最後までに育ってほしい姿を復習して指導案を作成する。 ○予習事項：幼児期の最後までに育ってほしい姿を復習する。 ○復習事項：芋ほりの指導略案を作成する。
5 回	<自然との関わり体験> 【岡短畑】 生物・自然との関わりの事象に対する興味関心・、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：芋掘り、焼き芋を体験する。 ○学習成果：芋掘りの指導案の確認をする。焼き芋の方法を知る。 ○予習事項：焼き芋の方法を調べてくる。 ○復習事項：自分の考えた指導案の反省、感想をまとめる。
6 回	<環境に関わる力を育む保育> 領域「環境」のねらいおよび内容をふまえて保育を構想する。 ○活動内容：演習問題④（テキスト p. 75）を話し合う。（玉ねぎ植え付け） ○学習成果：季節による自然や生活の変化を感じる体験ができる遊びを考える。 ○予習事項：テキスト「環境に関わる力を育む保育」を復習する。 ○復習事項：遊びに使えるものを作る。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<遊びや生活の中で思考力の芽生えを培う> 自然物や身近な素材を用いた簡単な遊具やゲームを製作する。 ○活動内容：演習問題⑥（テキスト p. 131）を話し合う。 ○学習成果：自然物や身近な素材を用いて遊具を作り楽しむ。 ○予習事項：自然物や身近な素材を集めてくる。 ○復習事項：遊びを体験して改良する点や工夫する点を考える。
8 回	<社会生活との関わりをつくる> 【 模 擬 室 】 生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：演習問題⑦（テキスト p. 146）を話し合う。 ○学習成果：伝統や伝承遊びをどのように保育に取り入れるか考える。 ○予習事項：伝承遊びを調べて出来るようにする。 ○復習事項：いろいろなわらべ歌をまとめる。
9 回	<子どもの育ちをつなげる> 物理的事象との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：演習問題⑧（テキスト p. 159）を話し合う。 スライム作り。 ○学習成果：幼児の物理概念の特徴について分かる。 ○予習事項：スライムについて調べてくる。 ○復習事項：スライムの作り方を復習し、指導略案を考える。
10 回	<保育の課題について考える> 乳幼児が興味・関心を抱ける環境を作る。 ○活動内容：エプロンシアターを作る ○学習成果：乳幼児が興味を持つものを考える。 ○予習事項：保育実習の経験から導入に使えるエプロンシアターを考える。 ○復習事項：エプロンシアターを作る
11 回	<保育の課題について考える> 乳幼児が興味・関心を抱ける環境を作る。それを生かした保育計画を立てる。 ○活動内容：エプロンシアターを作る ○学習成果：保育についての指導案を作成する。 ○予習事項：導入方法を考える。 ○復習事項：エプロンシアターを作る
12 回	<わが国の文化や伝統に親しむ> 伝統を次の世代へとつないでいく体験を考える。自然に興味や関心をもつ。 ○活動内容：お正月行事を理解する。門松を造る。 大根を収穫する。 ちゅうりっぷを植える。 ○学習成果：伝統行事に興味を持つ。 ○予習事項：お正月について調べる。 ○復習事項：伝統行事を調べて まとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	＜保育の課題について考える＞ 【 模擬室 】 乳幼児が興味をもつ環境を考える。 ○活動内容：エプロンシアターを発表する。 人の考えを知り、良いところを探す ○学習成果：保育構想の向上に取り組む。 ○予習事項 発表の方法を考える。 ○復習事項 いろいろな保育案をまとめる。
14 回	＜小学校教育との接続のポイント＞ 小学校教育にどのようにつながっていくか理解する。 ○活動内容：演習問題⑨（テキスト p. 170）を話し合う。 ○学習成果：発達や学びの連続性を大切なことを理解する。 ○予習事項：自分の保育経験から問題を考えて、解決する環境を考える。 ○復習事項：小学校教育との違いをまとめる。
15 回	＜まとめ➡人的環境としての保育者＞ 【 模擬室 】 幼児の生活における活動は科学的知識の基礎の獲得と意味づけし、保育者としてどう支援していけば科学的思考が育つのかまとめる。 ○活動内容 授業内容の振り返り ○学習成果 環境へのかかわり方について振り返る、 環境についてまとめる。 ○予習事項 今までの学習内容を振り返る。 ○復習事項 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。

令和 5 年 度 教 育 計 画								
科目名	幼児と表現Ⅱ		授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E 棟 105 研究室				e-mail：sekinotomoko@gmail.com				
教育目標と学生の学習成果	教育目標：実務経験のある教員等による授業科目である。 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助ができるための知識と基礎技術の習得を目指す。 1. 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があること、他者と関わりながら生活や遊びを通しての育つことについて理解する。 2. 幼児の造形活動における素材・用具についての扱い方と、発達段階を踏まえた援助を体験的に学ぶ。 3. Society5.0 の視点を取り入れつつ、幼児や幼児を取り巻く環境がより豊かになるような環境構成と保育の展開について試行錯誤することができる。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる 3 項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる力を育成する。							
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ① 課題の保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容とする。 ④ 課題を通して学んだことを文章・イラスト・写真等で記録する。 ⑤ 課題ごとに自己評価を行い反省と課題を記す。 ⑥ 予習・復習と宿題について教員が説明する。						
教育方法	予習・復習	・課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・必要に応じて記録写真を撮り、自己評価と記録を忘れないうちにまとめる。 ・スケッチブックやプリントにまとめた予習復習内容の一部は次回の授業内で相互共有し、学習の深化を図る。						
	テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』編：樋口一成 (株) 萌文書林 『折り紙遊び』福井晴子／編集 (貸与)						
学習評価の方法	以下の 5 つの学習成果についてその度合いを、作品・記録等を含むスケッチブック及び授業最終回のまとめプリントへの記入内容によって満点を 100 点とし、おおむね 3：3：2：1：1 の比重で評価する。 ① 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解した。 ② 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を習得した。 ③ 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する能力視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる。							
注意事項	・Society5.0 保育に向けての活動の一貫として授業内で 1 人 1 回以上、制作過程、ねらい等を動画にまとめる活動を行い、QR コードを併用した展示鑑賞活動を試行する。 ・子どもと一緒に発表会用のお土産制作を行うことが決定した場合、第 14 回の内容をお土産制作の時間に変更し、発表会準備の期間に制作の時間を差し込む。							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション：幼児と造形表現〉 ○本時の目標 幼児教育における造形表現の位置づけについて、授業の進め方および評価について、受講の注意等について理解する。 ○本時の活動 ・シラバスの説明／制作過程等の発信についての提案 ・チャイルドヴィジョンを作成し、幼児の視界を体感する。 ・幼児による実際の作品を鑑賞する。 ・児童画の発達過程について知る。 ○本時の学習成果：授業を受ける意味を学ぶとともに、造形を指導する保育者として求められる日常的な心がけ、視点について理解する。 ○予習と復習：自分の幼少期の作品を探したり思い出したりしながら授業内容の確認をする（約 60 分） *課題のフィードバック：自分の子ども時代の作品の写真やその発達過程についての考察をメールで提出、次回授業内で共有する。 。
2 回	〈描画材 ①クレヨン・ペン・丸シール〉 ○本時の目標 乳児期（0 歳～2 歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。 ○本時の活動 ・クレヨンやペンの特徴と、幼児が使用する際の注意点を、実際に使いながら確認する。 ・事務用丸シールを活用した表現を確認する。 ・擦り絵の技法を確認、ハロウィンをテーマにした作品を制作する。 ○本時の学習成果：乳児期（0 歳～2 歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。 ○予習と復習：教科書 14 頁～21 頁を読んで本時の復習をしておく（約 60 分）。 *課題のフィードバック：描画材の特徴について第 15 回のまとめプリントで再確認する。
3 回	〈描画材 ②水彩絵の具による多様な表現〉 ○本時の目標 発達段階にあわせた水彩絵の具や用具、環境設定について理解する。 水彩絵の具を使ったモダンテクニックによる表現を演習を通して確認する。 ○本時の活動 ・水彩絵の具の特徴と留意点を教員が説明をする。 ・発達段階に合わせた活動例を確認し、モダンテクニック（デカルコマニー・スパッタリング・吹き流し・はじき等）による演習を行う。演習にあたってはグループごとに体験コーナー準備を割り当て、クラス全員が活動を行えるような環境設定から行う。環境が整ったら全員が各コーナーを巡りながら体験を行う。 ・授業の終わりに自らの制作の振り返りと、各コーナーの環境設定について評価を行う。 ○本時の学習効果：水彩絵の具の特徴を知り、それを活かした表現（はじき、吹き流し、混色など）と場の設定、援助のポイントを習得する。 ○予習と復習：次回の授業に向け、配布資料で子どもの絵画表現について復習する（約 60 分）。 *課題のフィードバック：水彩絵の具による造形遊びのバリエーションを知ることで、材料や技法の研究をすることで現場での対応力が高めることができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	〈描画材 ③絵具と筆によるドローイング〉 ○本時の目標 水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた展開例について学ぶ。 ○本時の活動 ・水彩絵の具によるドローイング並びに発達段階に合わせた援助について理解する。 ・子どもを対象として「ポーズをとるひと」の実践例に沿って活動をする。 ・ポーズをとる人のドローイングを体験する。 ・相互鑑賞とドローイングの感想を発表する。 ○本時の学習効果：水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた援助について学ぶ。 ○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく（30分） *課題のフィードバック：子どもなりのものの見方、表現の多様性への理解を深めることができる。
5 回	〈作者の想いを想像しよう～構成遊びから〉 ○本時の目標 身近な素材を様々な方法で加工し、それらを組み合わせる構成遊びを行う。相互鑑賞を通し作者の想いや作品の特徴について考え、発表をすることができる。 ○本時の活動 ・新聞紙を自由にちぎり、黒い画用紙に貼り付け構成遊びを行う。好きな部分に単色で着彩をしてアクセントをつくる。 ・新聞紙を決められた形に切断し、黒い画用紙に構成遊びを行う。好きな部分に単色で着彩もしくは好きな色の折り紙を貼っても良い。 ・相互鑑賞後、グループごとにそれぞれの作品の特徴について発表をする。 ・相互鑑賞～グループごとの発表を通して気付いたこと・考えたことをまとめる。 ○本時の学習成果：構成作品から作者の想いを汲み取ったり、その特徴について考察し、発表をすることができる。 ○予習と復習：発表のまとめができていない場合は仕上げておく。 教科書で構成遊びについて復習をしておく（約60分）。 *課題のフィードバック：多角的に作品を鑑賞し、それぞれの良さについて造形的な観点で分析することができる。
6 回	〈展開する絵～割りピンを活用して①〉 ○本時の目標 発達段階に配慮した割りピンを活用した平面作品づくりについて学ぶ。 ○本時の活動 ・割りピンによる発達段階別展開例を見る。 ・発達段階別制作例に基づいた作品を1点、自分で考案した作品を1点制作する。 ○本時の学習成果：子どもの発達の特性とその過程を理解した上で、与えられた素材（今回は割りピン）を活用した幼児にも楽しめる造形遊びを考案できる。 ○予習と復習：制作が遅れている場合は時間外に進めておく（60分）。 *課題のフィードバック：より良い作品にできるよう試行錯誤することで、保育の改善を目指す態度をはぐくむことができる。
7 回	〈展開する絵～割りピンを活用して②〉 ○本時の目標 割りピンを活用した作品を2点仕上げる。 学内展示に向け作品解説、台紙への作品貼り付けなどを行い仕上げ、飾りつけを行う。 ○本時の活動 ・作品を完成させ、展示できる形に仕上げ、飾りつけを行う。 ○本時の学習成果：作品を完成させることができる。またそれらを楽しく学内に展示、鑑賞をする活動を通し、環境構成について考えることができる。 ○予習と復習：時間外に設置された作品を鑑賞し、考えたことをまとめる（約60分）。 *課題のフィードバック：日常空間に造形作品を取り入れることの教育的意義について考察できる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	〈紙コップ&紙皿工作①〉 ○本時の目標 紙コップや紙皿を活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○本時の活動 ・グループごとにまとめた数の紙コップ&紙皿を配布。材料を加工せずに遊ぶ方法を考え、グループごとに発表する。 ・紙コップ&紙皿をハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 ○本時の学習成果：紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○予習と復習：制作が遅れている場合は進めておく（60分）。 *課題のフィードバック：自分のペースでじっくり制作をすることで、身近ではあるが作品として制作をする場合少し抵抗感のある素材を扱う場合の制作の進め方を確かめることができる。
9 回	〈紙コップ&紙皿工作②〉 ○本時の目標 紙コップや紙皿を活用した遊びや工作を完成させることができる。 ○本時の活動 ・作品を完成させ、所定の場所へ提出する。 ・相互鑑賞を行う。時間にゆとりがあれば展示・飾りつけを行う。 ○本時の学習成果：紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。相互鑑賞を通し、お互いの良さを味わう共に、保育の現場において多用な展開が可能であることを確認する。 ○予習と復習：紙コップや紙皿を活用した活動の展開例を調べておく（60分）。 *課題のフィードバック：素材の特徴を知った上で展開例に触れることで、具体的に想像しながら理解することができる。
10 回	〈自然物を使って①〉 ○本時の目標 自然物を活用した造形遊びを行う。 ○本時の活動 ・学内で落ち葉やドングリなどを集める。それらの使用上の注意点を学ぶ。 ・ドングリ等、虫が入っている素材は煮沸、新聞紙の上に広げて乾燥させる。 ・落ち葉や実を活用した様々な遊び（スケッチ、フロタージュ、擦り絵、ローラー遊び）を体験する。 ・学んだ技法を組み合わせで画用紙に構成遊びをする。 ○本時の学習成果：自然物を用いた造形遊びについて理解し、それらの技法を応用した作品を制作することができる。 ○予習と復習：教科書で自然物による活動について確認しておく（30分）。 *課題のフィードバック：素材の特徴を知った上で展開例に触れることで、具体的に想像しながら理解することができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	〈自然物を使って②〉 ○本時の目標 自然物を活用したリース制作を行う。 ○本時の活動 ・自然物と紙皿を組み合わせたリース制作を行う。 ・木工用ボンドを使った立体物の接着方法を知る。 ・紙皿の強度と貼り付けるものの重量について考えながら、強度を上げるために必要な手立てについて考えることができる。 ○本時の学習成果：身近な自然物を活用した造形遊びの魅力と展開例を考えることができる。また、強度を考えながら制作できるようになる。 ○予習と復習：後日学内で展示された作品を鑑賞し、考えをまとめておく。 *課題のフィードバック：日常空間に造形作品を取り入れることの教育的意義について考察できる。
12 回	〈切り紙～イメージの広がる折り紙〉 ○本時の目標 5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。 折り紙での見立て遊び、伝承折り紙について演習し、幼児期における折り紙遊びの意義について理解する。 ○本時の活動 ・プリントと教員の説明を参考にして切り紙で花を表現する。 ・四角や三角に折りたたんだ紙を自由に切り抜き花のような形を作る遊びをする。 ・作った花々を美しくレイアウトし、貼り絵にする。加筆して仕上げて良い。折り紙を使った見立て遊びについて教員が説明する。 ・伝承折り紙を教科書を参考に折る。 (かぶと、せみ、ボート、だましぶね、きょうりゅう、しゅりけん) ・折り紙を画用紙に楽しくレイアウトし、作品に仕上げる。 ○本時の学習成果：5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。折り紙の保育における意義を知り、発達に応じて援助するポイントを習得する。 ○予習と宿題：スケッチブックの未完成部分を確認し、次回までに仕上げておく（30 分）。 *課題のフィードバック：折り紙・切り紙は繰り返し作ることによって確実に学びが身につく遊びであることを実感することができる。
13 回	〈楽しい舞台装置を作るために～大道具制作の基本・様々な素材〉 ○本時の目標 発表会活動を盛り上げる大道具制作に必要な基本的な立体物の制作方法、強度を上げるための木材加工、舞台で使う様々な素材について学ぶ。 ○本時の活動 ・大道具で使用する材料について紹介をする。 ・グループごとに指示された大道具を制作。木材による補強の方法、解体しやすい作り方、道具の使い方について学ぶ。 ・不織布等オペレッタの小道具で使われる様々な素材に触れながら加工方法について学ぶ。 ○本時の学習成果：強度が高く再利用可能な大道具の作り方について理解する。大道具用の素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○予習と復習：次回の 1 時間では完成できそうにないグループは制作を進めておく（60 分）。 *課題のフィードバック：見通しを立てて材料の調達・役割分担決めることで行事に向けての制作スケジュールを考える力をつける。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
14 回	〈オペレッタ 大道具・小道具制作〉 ○本時の目標 オペレッタの大道具・小道具制作を行う。 ○本時の活動 ・オペレッタの発表会に向けて大道具・小道具の制作を行う。 ○本時の学習成果：安全で強度の高い大道具・小道具の制作を行うことができる。 ○予習と復習：今回で完成できな買った場合は空いた時間に制作を進めておく（60分）。 次回のまとめプリント作成に向け、教科書やスケッチブックで授業内容の復習をしておく（90分以上）。 *課題のフィードバック：学習内容の振り返りを通して、身についた力や更に確認が必要な部分について確認をすることができる。
15 回	〈まとめ：幼児の発達段階と表現の多様性〉 ○本時の目標 グループで取り組む課題プリントを通し、本演習の内容について振り返ることができる。 ○本時の活動 ・プリントで演習内容を振り返る ・スケッチブックの整理をする。 ・本授業のまとめと、次年度の「幼児と表現Ⅱの指導法」への導入としてビデオ視聴する。 ○本時の学習成果：幼児の発達段階と、その表現の多様性について理解する。 本演習の内容を振り返ることができる。 ○予習と復習：提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する（30分）。

令和5年度教育計画								
科目名	「幼児と表現Ⅱ」の指導法		授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E棟105研究室				e-mail：sekinotomoko@gmail.com				
教育目標と学生の学習成果	教育目標：実務経験のある教員等による授業科目である。 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助をするための知識と基礎技術の習得を目指す。 1. 幼児の造形活動に対し適切な評価を行い、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得する。 2. 造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 3. 造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学ぶ。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。							
	教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ① 保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ④ 解説、計画、製作等を通して学んだことを文章、イラスト、写真等で記録する。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。					
	予習・復習	・ 課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・ 課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・ 必要に応じて写真を撮り、記録をまとめる。 ・ スケッチブックやプリントにまとめた予習復習内容の一部は次回の授業内で相互共有し、学習の深化を図る。						
	テキスト	『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』編著：樋口一成 萌文書林						
学習評価の方法	以下の5つの学習成果についてその度合いを、作品・記録等を含むスケッチブック及び授業最終回のまとめプリントへの記入内容によって満点を100点とし、おおむね3：3：2：1：1の比重で評価する。 ① 幼児の実態・発達段階を踏まえた模擬保育の実践を重ね、指導案の作成、発達に応じた適切な評価・援助ができる能力を習得した。 ②造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 ③造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学んだ。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ							
注意事項	特になし							

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 〈共感しよう、褒めてみよう 1〉 ○本時の目標 ・本科目の教育目標、授業の進め方及び評価などについて理解する。 ・子どもの発達段階を考慮した声掛けについて考えることができる。 ○本時の活動 〈これまでの活動の振り返り：「幼児と表現Ⅱ」から「幼児と表現Ⅱ」の指導法へ〉 「幼児と表現Ⅱ」では、各種表現技法も織り交ぜながら幼児の発達段階を踏まえた表現を学習をしたことを振り返る。本科目では平面から立体・空間・地域・コミュニケーションへと表現を広げながら発達過程に配慮した子ども達への言葉掛けの演習、指導案作成、他領域との関連性、小学校以降の教科とのつながりについて考えていくことを説明する。 〈共感しよう、褒めてみよう 1〉 ・グループ内で先生役と子ども役に分かれ、指定された制作を行う。先生役は発達段階に配慮した言葉掛け、制作意欲が高まるような声掛けを工夫する。子ども役は設定年齢に基づいた行動を心がける。 ・発表会：グループごとに前にでて取り組みの発表をする。先生役は子ども達に話すつもりで作品の講評を行う。子ども役は先生役に言われて嬉しかったことや気付いたことを発表を行う。 ・発表会を通して気付いたことをまとめる。 ○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。子どもの発達段階を考慮しながら先生としてどのように励まし、活動を支援したらいいのかを考えることができる。 ○予習と復習：教科書やプリントで子どもの発達段階について確認しておく（60分）。 *課題のフィードバック：発達段階を確認することで、それぞれの段階に相応しい声掛けができるようになる。
2 回	〈共感しよう、褒めてみよう 2〉 〈造形遊びの指導案 幼児の発達と造形遊びの援助〉 ○本時の目標 ・子どもの発達段階を考慮した声掛けについて考えることができる。 ・幼稚園教育要領における表現の内容と、就学以後の図画工作ならびに美術の指導要領を比較し、表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について、小学校以降の教科との関連のなかで理解することができる。 ○本時の活動 〈共感しよう、褒めてみよう 2〉 ・前回と役割を交代し、指定された制作を行う。 ・発表会：グループごとに前にでて取り組みの発表をする。先生役は子ども達に話すつもりで作品の講評を行う。子ども役は先生役に言われて嬉しかったことや気付いたことを発表を行う。 ・発表会を通して気付いたことをまとめる。 〈造形遊びの指導案 幼児の発達と造形遊びの援助〉 ○本時の活動 ・小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を確認する。 ・乳幼児の造形表現について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から確認する。 ・同じテーマの題材も発達過程により造形遊びでの「子どもの姿」「ねらい」がかわってくることをサンプルを通して確認する。 ○本時の学習成果：小学校以降の教科との関連のなかで表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について考えることの必要性を理解できる。 ○予習と復習：配付されたプリントを復習する（60分）。 *課題のフィードバック：学習の連続性を意識できる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
3 回	〈遊びを広げる 小麦粉粘土①〉 ○本時の目標 小麦粉粘土の作り方を理解し、小麦粉粘土を使った遊びを考案することができる。 ○本時の活動 ・教員が小麦粉粘土の作り方と留意点を説明する。 ・グループで小麦粉粘土を作り、どのように表現できるか試作してみる。また、幼児がどのような動き、発見をするか予想をしてみる。 ○本時の学習成果：小麦粉粘土の作り方、遊び方、留意点を体験的に知ることができる。 ○予習と復習：次回は小麦粉粘土による造形遊びの指導案と参考作品を作成するので、スムーズに作成できるよう指導案や活動例を調べておく（60分）。 *課題のフィードバック：参考にできる指導案を探すことで、活動の流れ・書式を確認できる。
4 回	〈遊びを広げる 小麦粉粘土②〉 ○本時の目標 グループ内で造形遊びのシュミレーションを繰り返しながら指導案を修正・完成させていく過程を通じ、保育を改善する視点を身に付けることができる。 ○本時の活動 ・グループで小麦粉粘土を使った造形遊びの指導案を考える。 ・グループ内で役割分担を決め、造形遊びのシュミレーションをし、必要があれば指導案をその都度修正していく。 ○本時の学習成果：活動のシュミレーションと指導案の修正を繰り返すことで、保育を改善する視点を身につけることができる。 ○予習と復習：次回模擬保育ができるよう、準備を進めておく（60分）。 *課題のフィードバック：保育を改善する視点を身につけることができる。
5 回	〈遊びを広げる 小麦粉粘土③〉 ○本時の目標 小麦粉粘土を使った模擬保育をグループごとに行い、保育者役としての振り返り、幼児役をしてみてもの気づきをまとめる、具体的な改善策を考えることができる。 ○本時の活動 ・模擬保育に向け各グループで最終調整をする。 ・クラスメイトを幼児役にし、グループごとに小麦粉粘土を用いた模擬保育を行う。 ・教員による指導・講評。 ・活動を終えての気づきをワークシートにまとめる。 ・活動を終えての気づきを反映させ指導案に修正を行う。 ○本時の学習成果：模擬保育を通して気付いたことをまとめ、また改善が必要な部分については具体的な改善策を考えることができる。 ○予習と復習：ワークシート、指導案（修正版）を完成させる（90分）。 *課題のフィードバック：指導案を修正することで、保育を改善する視点を更に深めることができる。
6 回	〈乳幼児のための玩具づくり①〉 ○本時の目標 乳幼児のための玩具制作を通し、乳幼児の発達段階についての理解を深め、安全面に配慮した制作のポイントや留意点を確認する。 ○本時の活動 ・2歳以下の子どもの発達段階について確認する。 ・感触を楽しめる玩具、並べて遊べる玩具など発達段階を踏まえた玩具づくりを行う。 ○本時の学習成果：乳幼児のための玩具制作を通し、乳幼児の発達段階について理解を深めることができる。 ○予習と復習：乳幼児の表現造形活動について調べておく、玩具制作を進める（90分）。 *課題のフィードバック：玩具を通して子どもが発見するものについて思考することで、活動の流れや手立てを具体的にイメージすることができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	〈乳幼児のための玩具づくり 2〉 ○本時の目標 乳幼児のための玩具を使って模擬保育を行い、活動の流れを考えることができる。 ○本時の活動 ・玩具を完成させる。 ・子ども役と先生役に分かれ実際に活動を試みる。長く楽しむための声掛けや遊びのバリエーションについて考える。 ・活動のねらいと活動の流れについてまとめる。 ○本時の学習成果：乳幼児のための玩具を使った模擬保育を通し、活動のねらいのポイント、活動を広げるための声掛けや遊びのバリエーションを考えることができる。 ○本時の学習成果：乳幼児を対象とした造形遊びの例を調べ、玩具等を制作する（90分）。 ＊課題のフィードバック：実習に向けて乳幼児との活動の準備を進めることができる。
8 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉 ○本時の目標 ・子どもの造形活動を絡めた壁面構成についてイメージできる。 ○本時の活動 ・模擬保育室で保育室と壁面構成について、教員が説明する。 ・模擬保育室の壁面構成の要素について、教員が説明する。→子どもの制作物による構成を念頭におくこと。 ・グループごとに担当となった月の壁面構成の内容を相談して計画を立てる。→次回指導案完成を目標に進めることを告げる。 ・壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を重ねてアイデアを練っていく。 ○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。保育室の状況と壁面構成を具体的にイメージできる。 ○予習と復習：季節の造形遊びについて調べておく（60分）。 ＊課題のフィードバック：実践例に数多く触れることでより具体的に活動計画を考えることができる。
9 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成② 季節の造形活動を考える～指導案を作成する〉 ○本時の目標 季節の行事も念頭に置きながら造形活動を考え、壁面構成へとつなげていく計画を立てることで、子どもの生活や意識の流れを大切にしながら活動を組み立てていく視点を持つことができる。 ○本時の活動 壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を練り、指導案を作成する。 ○本時の学習成果：子どもの生活や意識の流れを大切にしながら造形活動を組み立てていく視点をもつことができる。 ○予習と復習：次回までに指導案を完成させておく（90分）。 ＊課題のフィードバック：指導案作成を通し活動のねらい、必要な手立てを明確にできる。
10 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成③ 制作（1）〉 ○本時の目標 子どもの発達段階を考慮しながら、壁面構成へつながる制作を進めることができる。 ○本時の活動 ・壁面構成のための制作をする。 ○本時の学習効果：子どもの発達段階を考慮しながら壁面構成へつながる制作を進めることができる。 ○予習と復習：制作が遅れている場合は、空き時間を利用して進めておく（60分）。 ＊課題のフィードバック：時間を掛けて制作をすることで多様な試作、ひいては子どもの反応を想定することができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成④ 制作（2）〉 ○本時の目標 壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○本時の活動 ・制作を完了させる。 ・模擬保育室への設置に向け準備を進める。 ○本時の学習成果：壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○予習と復習：作品設置に向け、必要な材料の調達を確認し、不足しているものは調達する。完成が出来ていない場合は仕上げる（60分）。 *課題のフィードバック：設置に必要な材料について具体的に考えることができる。
12 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑤ 設置〉 〈アートでつながる地域と子ども①〉 ○本時の目標 制作物を活かした壁面構成をすることができる。 表現活動を「地域とのつながり」をテーマに考えることで、様々な領域や活動空間と関連させながら表現を考えることができるようになる。幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。 ○本時の活動 ・模擬保育室への設置を行う。 ・「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動を考えることができる。 ○本時の学習成果：壁面構成を完成させることができる。 「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動について考えることができる。 ○予習と復習：教科書で地域とのつながりをテーマにした活動を確認する（60分）。 *課題のフィードバック：多くの実践例に触れることで、活動の組み立て方や、活動に込められた願いを知ることができる。
13 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑥ 相互鑑賞〉 〈アートでつながる地域と子ども②〉 ○本時の目標 全グループの指導案を確認しながら、模擬保育室の壁面構成を相互鑑賞し、それぞれの良さや工夫点、改善点などに着目して評価をすることができる。 「地域とのつながり」をテーマにした表現造形活動のながれについてまとめることができる。 ○本時の活動 ・全グループの指導案と壁面構成計画を印刷した冊子を参照しながら、模擬保育室にて相互鑑賞をし、担当グループについて制作物から壁面構成までワークシートに沿って評価をしていく。 ・ワークシートが完成したグループから「地域とのつながり」をテーマにした造形活動の流れについて考える。 ○本時の学習成果：相互鑑賞を通して保育を改善する視点をもつことができるとともに、幼稚園教育における指導上の留意点、評価の考え方に基づいて、活動を評価することができる。 ○予習と復習：次回模造紙にまとめられるよう準備を進めておく（60分）。 *課題のフィードバック：効果的なプレゼンについて考えることができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
14 回	〈アートでつながる地域と子ども③〉 ○本時の目標 グループごとに活動のねらい、内容、展開を模造紙にまとめる。 試作もしくは完成予想図を添える。 ○本時の流れ グループで考えた活動の流れを模造紙にまとめ、参考作品も制作する。 ○本時の学習成果 「地域とのつながり」をテーマとした幼児の造形表現活動を第三者に伝わるように掲示物としてまとめることができる。 ○予習と復習：模造紙へのまとめができていない場合には空いた時間に仕上げておく。 次回のまとめプリント作成に向けこれまでの学習内容を復習をしておく(90分～)。 *課題のフィードバック：学習内容の振り返りを通して、身についた力や更に確認が必要な部分について確認をすることができる。
15 回	〈まとめ〉 ○本時の目標 課題プリント作成を通し本演習のまとめをすることができる。 ○本時の流れ ・課題プリントにグループで取り組む。 ・各グループの「地域とのつながり」をテーマにしたポスター発表をみる。 ○本時の学習成果：幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい価値基準と判断力がつき、適正な意見を持つことができる。 ○予習と復習：スケッチブックを整理して提出する(30分)。

令和5年度教育計画							
科目名	幼児と図画工作	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付：E棟105研究室		e-mail：sekinotomoko@gmail.com					
教育目標と学生の学習成果	教育目標：実務経験のある教員等による授業科目である。 感じること・発見することの楽しさを実感し表現する力、保育者に必要な図画工作の基本的な表現技術の習得を目指す。 1. 五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 2. 他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 3. 図画工作の基本的な表現技術を習得し、応用できる。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。						
	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。					
教育方法	予習・復習	・ 次回の制作内容について参考図書などで調べておく。 ・ 時間内で課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させる。 ・ スケッチブックやプリントにまとめた予習復習内容の一部は次回の授業内で相互共有し、学習の深化を図る。					
	テキスト	特になし。					
学習評価の方法	以下の5つの学習成果についてその度合いを、作品・記録等を含むスケッチブック及び授業最終回のまとめプリントへの記入内容によって満点を100点とし、おおむね①～③：④～⑤＝5：1の比重で評価する。 ①五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 ②他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 ③図画工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。						
注意事項	特になし。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	〈オリエンテーション〉 〈感じよう・発見しよう① 美しいもののコレクション〉 ○本時の目標 ・授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 ○本時の活動 ・授業の進め方、評価、受講の注意についての説明 ・模造紙へのドローイングを共同で行い美しいを思った場所をトリミングする。 ・学内を探索し、美しいと思った場所をスマートフォンで撮影し、メールで提出する。 ○本時の学習成果：感じること・発見すること・伝え合うことを基本とする本授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 ○予習と復習：課題プリント「日常生活の中で見つけた美」をまとめる。(1日15分×7日間) ＊課題のフィードバック：次回このプリント内容を使って振り返りを行う。確認をした後返却。
2 回	〈感じよう・発見しよう② 構成美の要素とは〉 ○本時の目標 「美しいもの」の画像について、似た傾向のものを分類する等の分析を通し、構成美の要素について発見していく。前回の課題を模造紙に貼り付け学内に展示できる形にまとめる。 ○本時の活動 ・全員が撮影した画像を打ち出したカードをグループごとに配り、共通項によるグループ分けを行う。各グループの分析結果をクラスで共有する。 ・色の対比、リズム、大小、量感など、構成美の要素についての解説を聞く。 ・前回の作品を模造紙に自由に装飾しながらまとめ、展示できる形にする。 ○本時の学習成果：構成美の要素について発見、理解する。 ○予習と復習：次回は「風」をテーマにした表現活動を行うので、1週間「風」を意識して過ごしてみる。使用したい材料があれば準備しておくこと。(約70分) ＊課題のフィードバック：次回の授業で行う表現活動に活用。確認をした後返却。

3 回	〈感じよう・発見しよう③ 風〉 ○本時の目標 ・グループ別に「風」をテーマにした表現を試みる。 ○本時の活動 ・「風」から受けるイメージをウェビングやドローイングで広げていく。 ・工作室にある材料を活用し、どのような表現が可能かクラス全体で考えたのち、3～4グループに分かれ、それぞれ表現活動をする。 ・各グループの活動を相互鑑賞する。活動の中で風を感じたポイントがあれば記録のためにスマートホンで各自記録写真を撮影する。・前回の撮影による表現活動と今回の材料を組み合わせての表現活動を比較し、それぞれの特徴や長所・短所をまとめる。 ○本時の学習成果：①描画材の特徴を活かしながらアイデアスケッチを重ねたり、構想を練ることができる。②自分たちのイメージを表現するために材料を選ぶことができる。 ○予習と復習：今回は「光」を伝え合うので「光」について意識して1週間を過ごし、スケッチブックにメモや切り抜きなどを貼っておく。表現で使用してみたい材料があれば次回持参の参する。(約70分) *課題のフィードバック：次回の授業で行う表現活動に活用。確認をした後返却。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	〈感じよう・発見しよう④ 光〉 ○本時の目標 ・グループ別に「光」をテーマにした表現を試みる。 ○本時の活動：前回と同じ流れで進める。 ○本時の学習成果：前回と同じ。 ○予習と復習：学内に展示してある第3回の作品を鑑賞し気づきをスケッチブックにまとめる。第3回までの授業内容について振り返る(約70分)。今回は水彩絵の具を使った表現を試みるので、汚れても良い服を準備しておく。 *課題のフィードバック：これまでの学習内容を再確認。チェック後返却。

5 回	〈色彩の仕組み～色をつくってみよう〉 ○本時の目標 色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 ○本時の活動 ・色の仕組みとして三原色（赤・青・黄）、三要素（明度・彩度・色相）、色相環について教員が説明する。 ・水彩絵の具を使い、混色をしながら簡単な色相環を描く。 ・補色の効果、同系色の効果について制作を通して確認する。 ・グループごとにトランプ大のカードに混色して作った色を塗っていく。100枚以上作成。 ○本時の学習成果：色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 ○予習と復習：第6回はグループごとに作成した色彩カードを使った色遊びを行うので、今回の課題が完成していない場合は作成しておく（約30分）。 *課題のフィードバック：絵の具の仕組みを確認し、次回の授業の準備を行う。チェック後返却。
6 回	〈色で伝えよう・形で伝えよう〉 ○本時の目標 自作した色彩カードを用い、イメージを伝えることができる。また自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工・コラージュして伝えることができる。 ○本時の活動 ・グループごとに「重い」「軽い」「甘い」「辛い」等、言葉からイメージする色彩カードを選ぶ遊びを行う。 ・自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工。コラージュして伝えることができる。 ・相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：色と形の組み合わせでイメージを伝えることができる。 ○予習と復習：身近にある美しいと感じる広告、雑誌のページを観察し、どうしてそのように感じたのか考えてみる（約70分）。 *課題のフィードバック：身近に存在する色と形の効果を活かした素材に気付くことができる。チェック後返却。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	

7 回	〈五感を通して〉 ○本時の目標 触る、嗅ぐ、味わうなど、五感を通してしっかり観察することの大切さを実感する。基本的な水彩絵の具を用いた活動の流れを確認する。 ○本時の活動 ・季節の果物をイメージで描く。 ・実物を触る、嗅ぐ、味わうなど五感を通してしっかり観察し、水彩絵の具で描画する。 ・イメージで描いた作品と観察して描いた作品を比較し、それぞれの特徴について考察する。 ○本時の学習成果：対象をしっかりと観察する方法、水彩絵の具を用いた活動の流れを知る。 ○予習と復習：次回以降、紐や古着を活用するのでもしも家に不要な紐・毛糸・古着があれば持参する。果物を描いた作品をネットで検索し鑑賞をする（約 60 分）。 *課題のフィードバック：観察に基づく様々な作品に触れることで学習内容を振りかえる。集めた素材は次回の授業で活用する。
8 回	〈紐を使って〉 ○本時の目標 紐状のものを活用した表現ができる。 ○本時の活動 ・紐状のものによってできる表現について、実際に素材に触れながら、試行錯誤する。 ・紐を使った自由制作を行う。 ・相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：素材からイメージを広げ表現活動を行うことができる。 ○予習と宿題：作品が完成していない場合は仕上げておく。 紐状のものを活用した造形遊びを調べておく（約 60 分）。 *課題のフィードバック：作品を完成できる。多様な紐状のものを活用した表現を調べておくことで、次回の活動に活かすことができる。
9 回	〈キラキラ素材を活用して～ミラーシート・アルミ箔・セロファン〉 ○本時の目標 ミラーシートを活用した絵本やアルミ箔、セロファンを活用した作品を紹介し、反射する素材の魅力とそれを活用した造形遊びや玩具作りをする。 ○本時の活動 ・反射する素材を用いた造形遊びや玩具について紹介する。 ・様々な反射する素材を用いた作品を試作する。 ○本時の学習成果 保育の現場で取り入れやすい反射する素材に関する知識と扱い方を演習を通して身につける。それらの素材を活かした造形活動を考えることができる。 ○予習と復習：課題が完成していなければ次回までに仕上げておく。 反射する素材・透過する素材を用いた造形遊びを調べておく（約 60 分）。 *課題のフィードバック：作品を完成できる。反射する素材等を活用した表現を調べておくことで、次回の活動に活かすことができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 回	〈版の表現①〉 ○本時の目標 紙版画、ステンシル、スタンプ等、様々な版表現を紹介、本時は夏をテーマにした紙版画と、次回行うステンシルの型紙を作成する。 ○本時の活動 ・教員が版画遊びについて説明をする。 ・夏をテーマにした紙版画の版を制作する。(刷るのは次回) ・白画用紙を魚のシルエットに切り抜く。切り抜いた形は台紙に貼り、スタンプ版画で装飾する。もう一方はステンシルの型にし、ステンシル技法で魚に仕上げる。 ○本時の学習成果：版表現の特徴や多様性を理解し、幼児と活動をする際のポイントを確認する。スタンプ版画とステンシルの作品を仕上げることができる。 ○予習と復習：作品を完成させておく（約 30 分）。 *課題のフィードバック：完成した作品は学内に展示、相互鑑賞を通してそれぞれの良さや工夫点に気付くことができる。
11 回	〈版の表現②〉 ○本時の目標 紙版画の演習を通し、その特徴と指導上の留意点を確認することができる。 ○本時の活動 ・紙版画を刷る。準備から片づけ・残ったインクの処理までの流れを班で協力して行う。 ○本時の学習成果：紙版画の特徴を知ることができる。版表現での準備から片づけまでのポイントを演習を通して学ぶ。 ○予習と復習：飛び出す絵本やグリーディングカードなどを調べておく（約 60 分）。 *課題のフィードバック：次回の授業に向けてアイデアを練ることができる。
12 回	〈平面から立体へ① 折る・切り込みを入れる・巻く〉 ○本時の目標 折る・切り込みを入れる・巻くなどの加工をすることで平面が立体になることを理解する。 ○本時の活動 ・白画用紙を配布、糊やセロテープを使わず、ハサミ・カッターナイフのみを用いて立体作品をつくり、相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：平面から立体をつくる方法を知ることができる。 ○予習と復習：作品を完成させる次回は新聞紙を使用するので、持参できる場合は準備しておく（約 60 分）。 *課題のフィードバック：完成した作品は学内に展示、相互鑑賞を通してそれぞれの良さや工夫点に気付くことができる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	〈平面から立体へ② 新聞紙スティックによる造形活動〉 ○本時の目標 新聞紙を角から細く巻いてつくった棒「新聞紙スティック」を用いた立体づくりを通し、棒状のものが自立するための最低条件、立体制作のポイントを学ぶ。 ○本時の活動 ・新聞紙で立体をつくる方法をグループごとに考える。 ・新聞紙スティックの作り方を知る。 ・新聞紙スティックを活用した立体制作を行い、相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：新聞紙スティックを活用して立体表現ができる。平面素材で立体をつくる方法を知ることができる。 ○予習と復習：新聞紙を用いた造形遊びについて図書室等で調べておく（約 60 分）。 ＊課題のフィードバック：造形遊びの素材としての新聞紙の可能性を調べることで素材から自由に発想する視点について考えることができる。
14 回	〈緩衝材で表現しよう〉 ○本時の目標 初めて触れる緩衝材「エコプラス」の質感や特徴からイメージを広げ表現することができる。 ○本時の活動 ・高い塔を作る活動を通し、緩衝材「エコプラス」の特徴を知る。 ・グループごとにエコプラスで自由に制作を行い、相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：素材からイメージを広げて表現することができる。立体制作のポイントを押さえることができる。 ○予習と復習：次回の課題プリント作成に向け授業内容の復習をする（約 90 分）。 ＊課題のフィードバック：授業全体の振り返りをすることで、表現の楽しさや身についた知識・技能について再確認することができる。
15 回	〈まとめ：子どもと共に感じ、発見できる保育者へ〉 ○本時の目標 課題プリントを通し、本演習の内容について振り返ることができる。 ○本時の活動 ・演習内容を振り返るまとめプリントを作成する。 ・スケッチブックの整理をする。 ・本授業のまとめと、後期から始まる「幼児と表現Ⅱ」への導入として DVD『こどもこそ未来（書籍：子どもとアート付録）』を視聴する。 ○本時の学習成果：子どもと共に感じ発見できる保育者像をイメージすることができる。本演習の内容を振り返ることができる。 ○予習と復習：提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する（約 30 分）。